

Handsome

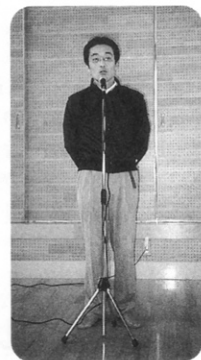
発行人 鳥取県西部中小企業青年中央会 会長 松本 啓 編集責任者 柴谷 政司 印刷所 東京印刷(株)

..... 家族参加

第2回レクリエーション例会開催



昨年、初の試みとして開催された、レクリエーション例会が好評につき今年度も、青空と新緑さわやかな上の台緑の村（伯太町）に於いて、4月20日（日）開催された。9：30集合し、松本会長のあいさつでは始まり、総勢約260名の参加者は初夏を思わせる様な暖かさの中、委員会对抗ウォークラリーが、「起伏が激しいコースなので、くれぐれも会員諸氏は無理をしないで下さい。」との注意の後、家族と一緒にスタート。元気なのは子供たち、アスレチックをこなしながら、前へ前へ先を行くのに、息を切らしながら後からついてゆく会員。（日頃、夜は元気という生活を反省した会員もいるとかいないとか）結果は、松本会長設定タイム44分44秒の縁起の良い数字に一番近かった政治・行政委員会が優勝。



午前中を大半ウォークラリーで過ごし、腹ごなしも出来、各委員会準備の山盛りの食材でパーベキュー、サザエの差し入れもあり、楽しい屋外でのパーティーとな



った。この昼食の間にも、ビンゴゲーム、地元名産宝探し、あてくじと各ゲームが行われ、景品を一杯持って喜んでいる子供たちの顔が印象的であった。

また、委員会对抗バスケットボールゲーム（フリースロー大会？）も行われ、選抜された会員より、奥様、子供たちの活躍が目立った。きわどい勝負の中、優勝に輝いたのが広報委員会。準優勝総務委員会、3位情報メディア委員会、以下順不同という結果であった。

また、屋台も大盛況。かき氷・アイスクリーム・焼きそば・うどん・フランクフルト・ポップコーンと露天商顔負けの口で完売し、相当収益もあがった……！？

好天に恵まれたレクリエーション例会も、無事予定通り終了し、会員の親睦、また日頃おろそかになりがちな家族とのふれあいをし、楽しい一日が過ごせたと思います。

担当委員会の総務、情報メディアの皆様、大変ご苦労さまでした。

視 / 察 / 報 / 告

新市ひたちなか市 (旧勝田市 & 旧那珂湊市)

政治行政委員会

当政治・行政委員会は、鳥取県西部地域（米子市・境港市ほか12町村）において、地方分権時代に備えた地域の合併問題について研究しておりますが、当地域の合併に類似している茨城県の「新ひたちなか市」を視察し、今後の活動の参考とすべき、4月8日、9日に委員会より里道委員長を団長とし、秋田委員、和田委員が代表で行って参りました。

「新ひたちなか市」は、東京から110Km圏にあり、茨城県の中央部からやや北東に位置し、東西約13Km、南北約10Kmで98.99km²の面積を有していますが、最近では、動燃問題で有名な東海村に隣接した市といった方が分かりやすいと思います。

両市の特徴は、勝田市は人口11万5千人、産業面では電気、機械、精機、紙製品などの工業を、那珂湊市は人口3万2千人、水産加工業を主体とした食品製造関係水産業を基幹産業として発展してきた。その面でも米子市と境港市との共通点がある。

この度の合併の背景として、勝田市議会では平成2年3月に、広域行政調査特別委員会が設置され、2市1村（1村は東海村）の合併問題について調査、研究が開始され、この特別委員会の調査、研究を踏まえ、平成3年3月には、市議会で「2市1村合併推進」を15対14で決議された。一方、那珂湊市議会では、平成2年6月に、

広域行政調査特別委員会が設置され、同調査、研究を踏まえ、平成3年5月には、市議会で19対1で決議された。市議会で広域行政調査特別委員会が設置されてからわずか4年半で「新ひたちなか市」が誕生した。いわゆる議会がイニシアティブを取った形である。

区域の大部分が2市にまたがる常陸那珂地区（面積1,182ha）は、ビジネス&プレジャーの実現できる国際港湾公園都市構想のもとに、現在北関東地域の新たな物流拠点となる常陸那珂港や首都圏最大の緑のオアシスとなる国営常陸海浜公園の整備、さらに工業団地造成事業がすすめられており、また土地利用が留保されている国有地では、土地区画整理事業が行われている。

この開発は、2市はもとより茨城県及び北関東地域の発展にとって極めて重要なプロジェクトであり、北関東自動車道の整備と相まって、21世紀には2市の区域に首都圏、北関東地域から人、物、情報、資本の集積する事が予想される。このような常陸那珂地区開発と2市の果たすべき広域的役割に鑑み、合併の必要性と効果が考えられ合併に至ったと解釈できる。

今回の視察は、今後の委員会活動にとって大変有意義な経験であり、より活動方針が明確になったような視察であった。

(報告者：和田)

第2回

県青中会ソフトボール大会

4月29日（火）午前10時、東中西部より中央会メンバーが、淀江町民グラウンドに集まり第2回鳥取県中小企業青年中央会の交流ソフトボール大会が開催されました。競技にさきだち開会式が行われ、森県会長より挨拶があり、「交流深めて心の友達をたくさん作って下さい」との話があり、ひきつづき西部の浜田一哉会員の力強い選手宣誓があり、油谷直前県会長始球式の球をバッテリーに立った森県会長が打ってしまい、始球式をやり直すハプニングがあった後、AB両グラウンドに分かれ東中西が、2チームずつ計6チームで行われました。

1回戦から逆転ゲームあり、打ち合いのゲームあり大変盛り上がった試合があった。

決勝戦は、中部A対東部Bの対戦になり、前半戦は点を取ったり取られたり的好ゲームだったが、後半は中部Aが大量点を奪い、最後まで粘る東部Bを何とか振り切り初優勝を飾った。

決勝戦終了後閉会式があり、米村県副会長の挨拶の後表彰式にうつり森県会長より優勝した中部Aに、優勝カップが手渡され東中西の中央会の交流ソフトボール大会は終了した。

最優秀選手賞 石川会員（中部）
優秀選手賞 武村会員（東部）
敢闘賞 浜会員（西部）



西部青年中央会 野球部今シーズンの初戦飾る

4月27日岸本町営グラウンドにて、今年初めて中央会としての試合を行いました。相手は去年より話があった米子JCと行いました。初回JCに3点を奪われたが、2回に中央会初のスクイズを決めて反撃を開始、つづく3回には4点を奪い逆転したが、4回裏に追い付かれた直後5回に2点を入れ突き放したが、粘るJCは6回に1点を入れ1点差まで詰め寄せられたが、最後は1点差のまま逃げきった。

試合内容は追いつ追われつの好ゲームであった。

投手力・攻撃力・守備力がまとまった良い試合であった。

最後に、ウイニングボールを取った松本監督（会長）の采配が光った。

試合に勝ち慰労会が大変盛り上がった。

チーム	1	2	3	4	5	6	7	計
青中会	0	1	4	0	2	0	0	7
J C	3	0	0	2	0	1	0	6

4月度委員会報告

政治行政委員会

平成9年4月3日(木) 於:米子食品会館 出席者/9名

- 内容/1. 役員会報告
2. 茨城県ひたちなか市の視察について
視察の日程、視察者を決定し現地(ひたちなか市)での市役所、及び商工会議所での質問内容を討議した。

地域ビジョン委員会

平成9年4月11日(金) 於:米子食品会館 出席者/10名

- 内容/1. 山陰夢みなと博覧会衛星放送についての打ち合わせ
2. 5月担当例会についての打ち合わせ

経済委員会

平成9年4月10日(木) 於:米子食品会館 出席者/12名

演題/「コンベンション振興による波及効果」
講師/財団法人 とっとりコンベンションビューロー
専務理事 奥谷吉男氏

内容/今回は講師に奥谷吉男氏をお招きして新しく米子駅前にできるコンベンションセンターの経済効果について伺った。コンベンションセンター建設による経済効果だけでなく利用効果によっても鳥取県西部地域に多大な経済効果をもたらす建物であるが利用者をどのように確保していけるかが今後の課題であり官民一体で利用率アップに協力をお願いしたいとのことであった。

経営委員会

平成9年4月16日(水) 於:米子食品会館 出席者/11名

演題/「中国貿易とビジネスチャンス」
講師/財団法人 しまね国際センター経済交流室
主事 津森修氏

内容/講師先生がまとめられた資料「中国遼寧省・山東省貿易・投資環境考察書」が丁度刷り上がったところであり、この資料をもとに成功している具体例や、失敗例の問題点など有益な内容のお話を聞くことができた。

ごく最近まで、日本の投資を熱烈歓迎していた中国側も、最近では必ずしもそうではない状況とのこと。品質や手続きにうるさくない、韓国などの経済力をもった近隣アジア国に貿易相手国を移している。輸入するのか、輸出するのか解らないような、曖昧なミッションなど、見向きもされない。「日本はずし」は貿易の世界でも確実に進行しているとのこと。

貿易は案外簡単なもの、もっと積極的に取り組めるはずです。チャレンジしてみよう!

P.S. これから貿易に興味のある方は津森氏のおられる財団法人しまね国際センターの賛助会員になってみては如何でしょうか。(お問い合わせは経営委員会 中ノ森までご連絡ください)

情報メディア委員会

平成9年4月14日(木) 於:米子食品会館 出席者/11名

内容/総務委員会との合同委員会

「4月20日(日曜日)」の例会のための最終の打ち合わせを行いました。

240名からの参加予定を頂き「嬉しい悲鳴」といった所でしょうか、フル回転で LET'S GO!

指導力開発委員会

平成9年4月22日(火) 於:境港ビアガッセ 出席者/11名

講師/千代むすび 岡空晴夫氏

内容/11月に講師に迎えた岡空氏を再度講師に迎え、前回のテーマであった“地ビール”の完成品を委員会にいただいた。オープンしたばかりのビアガッセにはそれなりのおもむきがあり、ほろにがさが倍増されたように思う。

会期も終わりに近づき、出席率の悪いメンバーも久しぶりに顔を出してもらい堀田委員長もニコニコ顔であった。二次会に流れて行ったのは言うまでもない。

社会・文化委員会

平成9年4月16日(水) 於:米子食品会館 出席者/11名

内容/1. 役員会報告
2. 「働く女性」今回は会員の会社での女性又は、訪問先での女性社員についてディスカッション方式でおこないました。

- 1) 会社での地位・役割 事務及び営業
- 2) 女性社員の特性
 1. ねばり強い
 2. 目標意識が強い
 3. すべての事に平等をこのむ
- 3) 訪問先では、女性社員の方にはまず嫌われない営業面、アポなどに不利になりやすいとして女性社員には、不満を聞く責任ある仕事をしてもらうなどその他多くの意見が出ましたが、また次回に報告を致します。

総務委員会

平成9年4月14日(月) 於:米子食品会館 出席者/17名

内容/情報メディア委員会との合同開催

1. 役員会報告
2. 4月レクリエーション例会の件
セクション別の最終打ち合わせ
情報メディアとの最終打ち合わせ
3. その他

広報委員会

平成9年4月7日(月) 於:米子食品会館 出席者/14名

内容/○役員会報告

- 5月ハンサム編成会議(18時30分~20時40分)
- 新入会員歓迎会

委員長交流会

3月28日(金)倉吉市レストラン富士に於て、第1回目の県青年中央会委員長交流会が、東・中・西の各委員長と、県会長・県直前会長・県副会長の計25名の参加で開催されました。西部からは5人の委員長・2人の委員長代理(副委員長)・松本啓副会長と夢みなと博覧会企画の取材(カメラ撮り)で音田監事の9名参加でした。

会の冒頭で、森県会長より、初めての試みの委員長交流会の趣旨等の説明の挨拶があり、引き続き各委員長より委員会の紹介・出席状況・運営上の心掛けや今後の方針等に関する発表がありました。

各地区の発表の項目を簡単にまとめると、東部では、鳥取環境大学問題(地域交流委員会)・手作りカヌー大会の実施や高校生の進学意識調査(トライアップ委員会)・個人輸入(国際委員会)インターネットのホームページも制作がほぼ完了し掲載の段階に入っている(ネットワーク委員会)等である。中部では、ゴミ問題シンポジウムの開催(物流委員会)・会員の拡張を考える(拡張委員会)等々、又、会報誌の発刊は、東部は総務委員会・中部は総務広報委

員会が担当し、西部と違う点は、委員会の中で編集チーム(専任者)が設置されているという点であり、会報誌の発刊とホームページの掲載と複数の作業を持つ西部も、委員会の中を編集チームとインターネットチームに分け専任化した方が効率が良いのでは?と感じた。

最後に、各地区委員長が抱える問題について、例会・委員会の出欠案内や出席状況の把握方法、出席率の向上方法等の手法等の意見



交換もしたが、全般的には時間の都合で、各委員会の状況報告に止まり、十分な意見交換までには至らなかったように思えるが、2次会の席では、各地区委員長どうし充分に懇親を深められました。

皆様、 「ウィンズ」って御存知ですか？

ウィンズとは競馬場へ行って馬券を購入できないファンへの便宜を図るために設置された施設です。なんとそのウィンズが、米子市の北西の一番端の「崎津工業団地」の一角に進出が予定された。

その計画案が公表されたのは、今から約2ヶ月前の3月始、それからというもの、まわり一面ネギ畑の平和な我が町は、この話題でテンヤワンヤの大騒ぎ、朝のゴミ置場、昼の畑、夕方の立ちキュウでの話題はすべてこの問題に花が咲いた。「ギャンブル場が出来ると子どもの為に悪い」「交通渋滞がおこる」とか悪い話ばかり出てくる。このままではいけない、一度地元の人達で、現実のウィンズを視察に行こうと言うことで、4月11日、12日に福岡県北九州八幡のウィンズ八幡まで地元自治会の代表総勢70名で行ってきました。私の今までの経験から視察旅行で観光バスにのるとすぐにビールだ酒だと飲むことが当然だと思いましたが、今回はその予想は見事に覆され、米子市の担当者の説明、参加者の熱心な意見の発表等で、大変真面目な旅行でした。

今回のウィンズの視察で感じた事は、警備・清掃面が行きとどき、未青年者や不信な人の姿は無く、施設内・施設周辺共、とても清潔感が感じられた。それ以上に雇用関係で200~250名の雇用が必要となり、地元に入る環境整備費・固定資産税等の財政への影響が考えられ、地元の人々が心配しておられる問題は、ウィンズ八幡を見る限りでは私個人的には無く、経済的波及効果の方が大きいのでは？と思うが、今後いろいろ論議をよびそうだ。

最後に話は変わりますが、私は未だかつて、馬券を購入したことがありません。会員の皆様の中で競馬に詳しい方、購入時のマークシートの方法、勝つ馬の見分け方等のご指導の方よろしく願います。

聞いてごしない **Part 10**

(無駄使いするな！)

私は怒っている。新聞によると、ある国の自治体では、年度末のたった1日で8億7千万円もの事務用品を購入していたとのこと。その支出額が正当か正当でないかは不明だが、そこには、「年度内に予算を消化しなければならぬ」というおおよそ理解しがたい官公庁の理屈があり、「節約」という姿勢など微塵も感じられない。

この国は、「国民の血税を湯水の如く使いまくり、そのうえ孫子の代まで分も借金を重ねる放蕩な政治家、官僚のいる国」として本に紹介されている。

利子年間1兆3千億円という旧国鉄の28兆円の負債、「国民の預金を守るため」というまやかしの住専処理に6,850億円、償還財源のない241兆円の国債発行残高、農道を滑走路化するための「ウルグアイラウンド対策費」6兆円、さらに農業の足腰をそぐためにバラまかれる年間2兆2千億円の補助金・助成金、計画策定後、凍結、解除が繰り返され、政治家の票集めに抜かれた伝家の宝刀、整備新幹線未着工区間工事費1兆2千億円、自主財源を無視した地方自治体の106兆円の借金等々…。ぜ〜んぶ国民の税金で賄われるようだ。

さらに悪いことに、この国の官僚、政治家は許認可権を濫用し、私腹も肥やすという。ただこの国にも救いはある。地方公共団体レベルであるが、県市民オンブズマンという「ウルトラマンの婿養子」達が、官官接待、食糧費、カラ出張、裏金作りといった公金の不正出資を暴きつつあるらしい。「官が民の上にふんぞり返って金をバラまいたり、使い込んだり」という、長い歴史の中で培われた悪しき構造的体質を変えていくことは、気が遠くなるほど根気のいる作業である。この国の良識ある国民にエールを送りたい。

「遠い昔、我が国日本もそうだったな」と、幼き日に学校で習ったことを思い出しつつ、私は今や世界最強のプロ野球チームとなった常勝「阪神タイガース」の試合を観ている。そういえばこのチームもその昔、天文学的な借金をしていたという…

(文・てなぐさみ 2020年)

コピーをして名簿にお貼り下さい

5月例会案内

と き 5月15日(木) PM 6:30~
 ところ ホテルサンルート米子
 内 容 ○夢みなと博覧会衛星中継進行状況発表
 ○臨時総会
 担 当 地域ビジョン委員会

※出席の有無を返信ハガキにてご回答下さい。

5月役員会報告

5月定例役員会が5月1日(木)、米子食品会館に於いて開催された。

当日の主な議題は、次の通りです。

- (1) 5月例会(臨時総会)、6月例会開催の件
- (2) 新入会員承認の件
- (3) 収支見込みの件
- (4) トライアスロンの件
- (5) 委員会報告作成の件
- (6) その他

※尚、詳細については、各委員長までご照会下さい。

編集後記

ハンサムの今月号にも、例の忘年会の目玉商品冬のレポートの記事が書かれていないとおもわれている会員の皆様大変申し訳ありません。今年の冬は中途半端の気候のため、なかなかなだれ注意報が消えず、なだれの心配がなくなったら、とたんに雪もなくなってしまいました。ハンサムには春のレポートと言う事で大山登山の記事を書かしてもらいますので、よろしく願います。